

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語・算数・理科の3教科で、平均正答率が全国の平均値を上回る結果だった。しかし、算数・理科の2教科で平均正答率が東京都の平均値を下回る結果だった。

○国語においては、「読むこと」に関する問題の正答率が低いことから、複数の資料を読んで、書いてあることを理解し、必要な情報を整理しながら適切に解答することが苦手な児童が多い。

○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、主要教科における既習事項の定着や、基礎・基本的な内容についての定着に個人差がある。また、語彙力が豊かなだけでなく、自分の考えを具体的・論理的に表現することに苦手意識がある児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○自分の考えを友達同士で交流する場面では、対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる児童を工夫する必要がある。

○語彙の習得、文章構成の理解等「言葉にこだわる指導」、考えの形成や記述、共書き等「書くことにこだわる指導」、教科書の文章を読む、読書活動等「読むことにこだわる指導」の工夫を継続して行っていく必要がある。

○どの教科においても、低・中・高学年という2年間の系統的な指導を教員間で共通理解を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダードS」に基づいた授業を行う中で、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

○「深い学び」を実現するために、アウトプット（文字言語による表現）の時間を大切にする。

○引き続き、ICT機器や思考ツールを効果的に活用し、「分かる、できる、楽しい」授業づくりを進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科の授業において「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○個別最適な学習の際、児童一人一人の学習課題に合った学習資料、学習環境を設定する。 ○児童が自分にあった学習内容、方法、ペース、順序等を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○基礎的読解力の6分類の明確な視点をもって教科書等を正しく読み取る場面をつくる。 ○「INPUT→THINK→OUTPUT」の活動を意図的に授業内に設定する。 ○OJTを通して「読み解く力」についての共通理解を図る。	○各教科等の学びを、総合的な学習の時間と関連付け、教科横断的な単元を組み立てる。 ○「郷土愛の育成」の観点から、どの学年でも「地域を学ぶ」「地域を通して学ぶ」ことを重視する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアにおける授業参観の際は、授業のどの場面で重点的に「個別最適な学び」「協働的な学び」を行っているのかを明確にした上で実施する。また、指導案検討を小・中学校教諭で行う。9年間の義務教育を意識した指導の充実を図る。 ○9年間を通した単元配列表を活用し、系統的にキャリア教育の実施を図る。また、iCS委員会等を通して、学校と地域との連携を充実させ、児童に自己肯定感や自己有用感を高める活動を推進していく。	○総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習として、「課題設定→情報収集→情報の整理・分析→まとめ・表現」を行う。また、この学習過程をスパイラルに展開することで、探究的な思考の育成につなげる。 ○学びのエリア研修では、総合的な学習の授業公開や授業参観を通して、授業の成果と課題を共有し、9年間の義務教育を意識した指導の在り方、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの質的改善を図る。	○これまでのICT機器の活用率の高さをいかし、1日1回はICT機器を授業内で活用することをベースに、効果的な活用の仕方を図り、授業の質、学習の質を高めていく。 ○アンケート機能や、デジタルホワイトボード機能、デジタル教科書を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることで、児童の学びを充実させていく。